

第4回 栗原市総合計画審議会 会議録

日時：平成23年10月11日（月）
午前10時～午前12時
場所：市役所2階 庁議室

1 開 会

2 あいさつ 大村会長

3 案 件

(1) 総合計画に関する市民アンケートの集計結果について

～事務局より、資料にもとづき説明～

(委員)

40歳代の不満足が多いようだが、考えられる要因はあるか。

(事務局)

不満足が多かった40、50代の方は仕事や家庭の中心を担っており、他の世代に比べ、今の厳しい経済・社会情勢を強く感じるのではないか。

(委員)

調査の結果をどう読み込み、どう施策に反映していくか。不満足の原因を探っていくことが必要ではないか。

(委員)

年代別に集計しているが、年代別の違いが統計的にどれだけ有為性があるのか。不満が出たものについては、社会で置かれた状況以外に要因となっているものとして市が考察したものがあるか。

(事務局)

将来像ごとに違いがあれば考察できるが、どの施策も40、50代が不満足が多いという同じ結果であった。

20、30代の若い世代の回答数は少なかったが、何か特徴が出るかと思

い集計した。例えば若い世代に関係の深い子育て関連の施策や教育関係で年代ごとに差が出るかと思ったがあまり差は出なかった。

(委員)

市政としてはいい結果が出ているのではないか。特に福祉分野は満足が多い。さらに20代ではもっと満足度が低いかと思ったが、極端に低くはない。産業分野については、現代の世相を反映した結果となっているのではないか。

(委員)

若い世代の満足度については、若い人の回答率が低く、本当に関心のある人しか回答してないところに要因があるのではないか。

(事務局)

市の年齢動態に合わせて配布を行っているが、満足していない方が回答していない可能性はある。自由記載では様々な意見が記載されており、厳しい意見もあるが、市民の声として後期の取組に反映してまいりたい。

(2) 総合計画前期基本計画施策評価（内部評価）について

～事務局より、資料にもとづき説明～

①将来像Ⅰについて

(委員)

貢献度の高い取組を行っているが市民の満足度は低い。その辺りを後期にどう反映するか。

これまでは自然を恵まれた自然と捉えていたが、怖い自然という面もある。その面とどう向き合って質の高い暮らしを目指していくか。

②将来像Ⅱについて

(委員)

旧町村単位でのまつり、イベントが行われているが、旧町村時代と比べると満足な助成が得られず予算の関係で中途半端な実施となっているものがある。隔年実施とし、その分大規模に実施するといった考えはないか。

(委員)

今までの取組は即観光につながるものであったと思うが、まだまだ埋もれている歴史等がある。それらが市民に共有されるような取組を行うことで郷土への誇りが生まれるのではないか。

(委員)

学校がそういった場として活用されていたが再編となり地域の伝統が教育に取り入れられなくなるのではと危惧している。子供たちに伝えていく場をどうつくっていくか不安である。

(事務局)

議会でも同様の質問があり、再編後も伝統を取り入れた教育を行っていく旨教育長が答弁しておりそのように進んでいくものと思う。

③将来像Ⅲについて

(委員)

「子どもを安心して出産でき…」とあるが、産婦人科、小児科が少ない現状である。栗原でどこで出産し、子育てしていけるのかと若い世代は不安に思っているのではないだろうか。

(委員)

近年ひとり暮らしの高齢者の増加が加速している。そこを踏まえて計画を策定する必要がある。

④将来像Ⅳについて

(委員)

ブランド化について、他の地域からも評価される地域ブランドづくりが必要だ。また企業誘致について、交通利便性が高いと言われているが全然活かしていない。用地がなく他市に企業が進出している状況ではないか。

また、中小企業の育成が必要である。進出企業はだめとなればすぐに撤退する。議会と企業との懇談会を申し入れたが議員の許可が必要と断られた。

(委員)

アンケートの結果から雇用不安が読み取れる。中小企業対策がうまくいっていない結果。ビジネスを起すことも含めてどこかにネックがあるのだろう。

また、ブランドを考えるのなら直売所が必要である。

(委員)

市職員だけでは限界がある。企業向けやブランド化のアドバイザーが必要である。

(委員)

中小企業対策について栗原モデルをつくれればいい。それを県や全国に発信するんだという意気込みで。また議員の積極的な関与も必要。

田園観光都市について、麦屋さんを紹介したのは観光よりも販売の面から紹介した。栗原の最大の課題は販売である。

大学連携事業については市民へのフィードバックが必要である。

省エネルギーに関する施策も必要。

(委員)

職員のおもてなし意識が非常に高いと感じることから市民のおもてなし意識も高いのではないかと感じる。

(委員)

企業誘致熱があり取り組んだということはよくわかっているが最近あまり見えてこない。継続して取り組む必要のある課題なので今後も取りくんでもらいたい。

(委員)

企業誘致は企業が来るとなれば従業員が栗原で生活することとなり、産業分野だけの話しではなく総合的な取組が必要である。

⑤将来像Vについて

(委員)

社会福祉協議会では地区社協づくりを進めており、年2回研修会を実施している。地区社協と自治会を合わせて活動し、それに支援する形としてはどうか。

(事務局)

実現に向け調整したい。

(委員)

社会教育に力を入れて取組を行うことがいいのではないか。

(委員)

総合計画を知らなかったが47%、周知の方法について検討が必要である。ホームページでお知らせしても高齢者には厳しい。

(事務局)

策定時にはPRしているがその後計画自体のPRは行ってこなかった。その結果かと捉えている。周知の方法について検討してまいりたい。

(委員)

なにかこれまでのところで意見はないか。

(委員)

親子で楽しめる公園、パークがない。自然はたくさんあるがそれを楽しめる場がない。

(委員)

効率化は大切だが、効率だけでははかることができない、残していかなければならないものもあるだろう。

教育センター等が統合、集約されたが身近になくなり不便を感じる場所もある。

(委員)

栗原ブランドや企業誘致について子ども達が知らない状況である。市について学ぶ副読本があったかと思うが、現在もあるのか。

(事務局)

現在も副読本はあるが、編成した時点で栗原ブランドや企業誘致が成立していなかったため掲載されていない。今後の編成時に、いただいたご意見を踏まえて検討してまいりたい。

(委員)

満足と不満足の違いを指標としてはどうか。

分からないを除いた数字での満足、不満足の違いの割合の算出をしてみてはどうか。

(委員)

原発事故関連のアンケートについてはどのように反映するのか。

(事務局)

将来像VIにおいて反映してまいりたい。

(委員)

喫緊の課題であると思うが、現在はどのように対応しているのか。

(事務局)

市独自の測定及び結果の公表等即座に対応できるものについては行っているところである。

4 その他

次回審議会の開催予定について

次回は平成23年11月4日(金)10時から開催することとなった。